

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
浅岡章一	神経・生理心理学	生物学的内容を取り扱うため、専門用語が複雑になりがちなものもあって、授業内容の解りやすさに関する項目では、全学平均をやや下回る得点となりました。この点に関しては、オンデマンド授業という形をとり、繰り返し動画を見れる事が理解につながったとのコメントや、説明が丁寧だというコメントもいただきましたが、より一層丁寧な説明を心がけていきたいと思えます。
浅岡章一	睡眠の生理心理学Ⅱ	比較的課題の多い授業だと思いましたが、それでも予習・復習の時間に関する項目の得点は全科目の平均より低くなっています。今後は、もう少し課題のレベルを上げて良いのかもしれないと感じています。また専門的な授業としてかなり高度な内容を取り扱っていますが、それでも授業内容の解りやすさについての項目の得点が一定程度に保たれていた点には安心しました。今後も専門的な内容をしっかりと伝えていこうと思えます。
山本隆一郎	臨床心理学概論	この科目は2年生の通年必修科目であり、膨大で広範な内容に関して学ぶことに加えて、各種臨床心理学モデルの背景にある人間観など、抽象度も高く、学生さんにとっては難しい科目の一つであると考えられる。しかしながら、127名の履修する必修科目の全般的な評価としては4.7点と高く、概ね満足度が高かったと考える。自由記述においても、熱意が伝わったという意見や、説明が細かく丁寧、毎回の授業での前回の振り返りが理解の助けになったこと、オンデマンド形式で何度も見返すことができたことがよかったことなどの肯定的な意見をいただくことができた。毎年伝えていることではあるが、「臨床心理学」は、勉強するというより学問の探究を通じて人生を考える学問であると伝えてきたつもりである。復習をしたり日常を学んだことで説明しようとしたりすることはきっと人生の役に立つと信じて授業を行ってきた。授業が終わったから終わりではなく、学びを日常生活に生かしていただきたい。
山本隆一郎	基礎ゼミナールB	この科目は、1年生の必修科目であり、「江戸川大学の学生として」「人間心理学の学生として」の学びの基礎を少人数制のゼミ形式で行う授業である。全体の平均値は4.9点と高い評価を頂いた。この類の少人数制の授業には多く認められることであるが、学生同士の相互作用やインフォーマルな場での交流の良好さという点が大きく評価に関係している。久しぶりのほぼ完全対面の基礎ゼミナールの授業であったが、このような評価がいただけたことは、ゼミ全体の雰囲気依存していると考えられる。本授業は、2年制以降の心理学の学び方の基礎が中心でありその真価は次年度以降に認められてくると思う。授業で身につけたことを活かし、心理学の様々な領域の学びを深めてほしいと思う。
山本隆一郎	専門ゼミナールⅠ	この授業は、3年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった(4.9点)。自由記述への回答は特になかったが、5.0点の項目も複数見られ、概して、満足度や各自が得られたと考えるものも多かったと考えられる。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。
山本隆一郎	専門ゼミナールⅡ	この授業は、4年生対象のゼミナールである。学生自身が選択して選んだゼミナールであるため、評価は概して高かった(5.0点)。また、他の授業比較しても、質問6の授業外に時間をかけたことを評価する項目も4.3点と高く、主体的なコミットメントをした上で、一定の満足度が得られていると考えられる。専門ゼミナールでの情報の批判的検討や事象についての仮説の設定、実現可能な方法を考え問題解決に取り組む営みの真価は卒業後に確認できるのではないかと思う。卒業生の生活に役立つことを期待する。今後も自分のゼミの専門性を高め、学生さんと研究活動を充実させていきたいと考えている。
水嶋陽子	高齢社会論	自由記述欄に、「授業開催形態についてできれば前日夜には連絡が欲しかった」とありますが、何らかの事実誤認かと考えます。なぜなら、オンラインになる場合は、1週間以上前に連絡をしています。
村上涼	人間関係	「学びの蓄積シート」の目的についての質問がありましたので回答させていただきます。このシートは、自分自身が何を学んだかを確認するために使っています。この科目の到達目標には、各授業回の学びを総合的に俯瞰し、洞察することが必要です。すなわち、各回の授業内容だけで到達できるのではなく、授業回のすべてを終了し、学んだことを材料にして考えることが必須となってきます。そのための手がかりとして「学びの蓄積シート」を活用してほしいと考えています。2年生以降の他の授業(村上担当授業)でもこのシートを使用しますので、「学びの蓄積シート」の意味について丁寧に説明をしていきたいと考えています。

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
田辺江美子	法学概論	<p>ほとんどの質問について、全学平均に近いものでした。 本講義では、はばひろい法学の基礎知識を学ぶことから専門用語も多く、比較的難しい内容も多くあったものの、「教科書や配布資料を読むなど、・・・授業に関連する取り組みをおこなった」については、4.5を、また「授業を通して多くの知識を得ることができた」については4.5、さらに「授業を授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」については、4.6というように、私にとっては、高評価といえるものでした。 ただし、これらの評価は、学生の一人一人が、ほぼ毎回の小課題を提出することによって、授業の内容を、自ら深めた結果です。 学生のみなさんの努力に、感謝いたします。 自由記述を寄せてくださった学生にも感謝いたします。 今後も、いただいた自由記述のひとつにある「法学は難しいイメージを抱くが、社会で生きていくうえで知っておくと得する情報を知ることができてよかった」と、学生のみなさんが思うような授業を展開したいと考えます。</p>
吉田一康	企業と法Ⅱ	<p>全般的に、高い評価をして頂きましてありがとうございます。その中であって、設問7「成績の評価基準を理解している」が4.5と低い評価で、最初の講義だけではなく、数回の講義で説明が必要と感じました。 設問11「授業は何を目的としているのかが、明確に理解できた」が4.7と相対的に低い評価で、授業の初めに今日のテーマと目的を明確に知らせる必要があると思いました。 設問5「教科書や配布資料を読むなど、予習・復習や授業に関連する取組をおこなった」が4.4で、設問6「この授業に関して、予習や復習などの事前準備や復習はどの程度時間をかけましたか」の評価が3.0だった点については、引き続き、講義内で、次週のテーマの紹介や課題などを与えて、予習や復習を習慣づけなければならないと考えました。 受講者に関しては、ほとんどの方が後ろに着席して、前列が空席だったのは寂しかったのですが、授業態度は、驚くほど静かで真面目なものでした。御礼申し上げます。</p>
杉山敏啓	コーポレートファイナンスⅡ	<p>この科目は金融・経営分野の専門科目にふさわしい内容と難易度を持つ科目として、企業の財務諸表データに基づく企業価値評価を重点的に学習しました。リアル講義回では講義レジュメを用いた理解促進を狙い、オンライン講義回ではオンデマンド方式を取り入れて、再生画面を一時停止して内容確認をするのに適したPC演習などを行いました。受講者の受講姿勢確認および理解促進の目的で、全回エドクラテス試験を行いました。全回の小テスト実施により、中間テスト・最終テストの平均点の向上を図ることができました。他方、予習インセンティブの付け方には工夫の余地があると認識致しました。</p>
杉山敏啓	金融ビジネス基礎	<p>この科目は金融分野の初学者を主たる対象に、金融機関、金融商品、金融システム等の用語・仕組みについて講義形式で学習する科目です。リアル講義回では講義レジュメを用いた理解促進を狙い、オンライン講義回ではオンデマンド方式を取り入れて復習がしやすいように配慮しました。受講者の受講姿勢確認および理解促進の目的で、全回エドクラテス試験を行いました。全回の小テスト実施により、理解促進を図ることが出来ました。他方、予習インセンティブの付け方には工夫の余地があると認識致しました。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
関根理恵	博物館資料保存論	<p>授業は、専門資格科目であるため、専門分野について必要な基礎的知識や技術等についての解説を主にしており、レベルも国家試験の内容に準拠した形で授業をおこなっている。履修者の中には公務員試験等の学芸員/文化財専門職の受験をする学生もいるため、それに対応できるようにしている。よって、博物館学の性質上、文理両分野にわたり、カバーしなければならない内容も多岐にわたっている。中学や高校では触れることもなかったような初めて学ぶ内容もあり、他の授業にくらべ、専門用語や覚えなければならない技術や判断基準、物品の取り扱い事項が多い点が負担になると思われる。よって、資格だけが欲しい学生や簡単に単位さえもらえればいいと考えている学生にとっては、授業内容やレベルに対し、不満を持つことは想定できる。一方で、授業内容については受講生のほとんどが高い評価がつけられているので、おおむね満足をしている様子がうかがえる。</p> <p>一方で、コメント欄で自身の主張と見られる言葉が書かれていたが、内容に具体性がなく、また、身に覚えのないことが書かれていた。アンケートは、授業内容を向上させるために書くものであり、人格を否定し、貶めることを目的とした言葉を投げかけるものではないと思われる。授業内容の性質上、解説やAV機器および動画等を用いた詳細説明などに大変時間がかかるため、常に授業に集中しており、他の授業のように、息抜きとなるようなよま話や業界の話をしたり、ゼミのように学生の悩み相談などをするような余裕のある時間をとることはできないため、不満を持つ学生もいることも考えられる。</p> <p>今年度の履修生に関しては、問題行動が多々見られ、改善および対策が必要であると思われる。</p> <p>事例1: 教室におらず、明らかに授業に出席していない状況なのに講義パスワードが入力されている。⇒不正行為です。少人数の授業ですので、不正行為はすぐに発見されます。大人数の授業であっても、不正行為にはわかりません。このようなことは、断じて行ってはいけません。</p> <p>事例2: 何週間も経ってから教員が講義パスワードを言わなかったので入力できなかったと事実ではないことを言い、今すぐこの場で出席に変更して欲しいと要求する(授業内課題の提出状況等、確認後対処しておく)と説明しても、納得をせず大声で喚く。⇒他の学生は問題なく授業開始時に入力できていますので、教員は、授業冒頭にパスワードを板書し必ず伝えていきます。きちんと集中して入力しましょう。)</p> <p>事例3: 同様に、何週間も経ってから教員が5桁しか講義パスワードを言わなかったので入力できなかったと事実ではないことを言い、今すぐ出席に変更して欲しいと要求する(確認後対処しておく)と説明しても、納得せず大声で喚く⇒他の学生は問題なく授業開始時に入力できていますので、教員は、授業冒頭にパスワードを板書し必ず伝えていきます。きちんと集中して入力しましょう。)</p> <p>事例4: コロナウィルス感染予防の換気をおこなうためわずかな時間だけ窓を開けたが、著しい拒否反応を示し、換気している授業なんてない。暖房がついているのに窓を開けるバカはいないと大声で教員を威嚇しながら罵倒し、大きな音をさせて物にあたり不満を表す。⇒コロナ感染予防のため、換気することは必要な事であると思います。コロナウィルスに対する考え方は個人によりそれぞれ異なるかと思いますが、11月から12月は大変増えてきていた時期でしたので、不安に思う学生も沢山いたのは事実です。自身の主張を通したい気持ちもあるかと思いますが、人に物事を伝えるとき、反抗的な態度や威圧的な態度をとる必要はありません。また、換気は、大学で決めた感染予防対策の基本方針に沿った措置であることを、理解してもらいたいと思います。</p> <p>事例5: 順番に指名し簡単な理解度チェックのための口頭試問をすると、隣の座席の受講者とひそひそと話すだけで、一切、答えない。無視するために、顔をわざとそむける。少し考える時間をおき、声がけをするが、不満を隣の座席の受講者に言うが、返答をしないで、反抗的態度で、不満をつぶやく。⇒口頭試問を受けたくないという気持ちがあったのかもかもしれません。宿題などでは、どの程度、解説を理解し、知識が得られているのかを知ることが難しいときがあります。そのために試問をおこなうことがあります。間違っても恥ずかしいことではありませんので、心配しすぎないでください。</p> <p>事例6: いつも、小テストや基礎的事項確認のための解説、レポート課題などについては、ポイントを含め、3度程度繰り返して説明をするようにしているが、説明が終わったそばから、「今、聞いていなかったのもう一度、説明してください」というなど、注意欠陥行動が見られる。</p> <p>事例7: 授業中、ノートをとらない。⇒プリントを見るだけではなく、ノートをとった方がよいです。解説では、プリント外のことをお話していることがあります。</p> <p>事例8: 授業中、授業とは無関係なwebページを閲覧したり、ゲームをしたり、机に伏して寝ている。⇒授業には、集中しましょう。</p> <p>事例9: 授業中であるにもかかわらず、次の授業の担当教員や学生が入室してくる。⇒授業妨害をする教員と学生に、モラルの問題があります。</p>

教員氏名	科目名	アンケートに対するコメント
関根理恵	現代社会基礎	<p>この授業は、オムニバス形式+学年全体の授業となっており、ゼミ担当教員の授業が、全部で3回程度しかなかった。(1回目:履修登録・成績確認等、途中2回(①爆破予告のためオンライン授業+②60分間の学年全体講義と30分間個別ゼミ授業)、最終回:年度末の総括)</p> <p>そのため、教員と学生が密着した個別相談ができるような授業を望んでいる学生にとっては、3回しかゼミ教員と接することができない形式で、不安や物寂しい気持ちが生じた可能性はある。また、早く専門性を学びたい学生にとっては、現代社会基礎の科目内容である総合的な学習に物足りなさを感じた学生もいたであろう。</p> <p>ゼミによって差があるという意見があったが、今年度の当該クラスは、問題を抱えていたことは教員自身も感じており、ゼミ学生を学内で見かけた際に声がけをしたり、メールなどにより個別にコミュニケーションをとる、保護者と一緒に問題解決に努めるなど、常にフォローを心掛けてきた。</p> <p>全体としては、以下の問題が見られた。</p> <p>①オムニバス授業ではあったが、グループ作業なども含まれる授業であったにもかかわらず、期間を通じて常に授業欠席者が多かった。</p> <p>②グループワークの際、一切、意見を言わない。</p> <p>③授業中にイヤホンをして音楽を聴きながらゲームをして作業に参加しない。</p> <p>④意見を発表したくないので、LINEで意見を書いてほしいとスマートフォンでの操作を要求しコミュニケーションを拒否する。</p> <p>⑤グループワークの司会者(ゼミ学生)が意見を求めても、ずっとだまっていたまま誰も一切、意見を言わない。司会者(ゼミ学生)が困っても、全く助け船をださない。</p> <p>⑥グループワークの際、発表資料に学生の名前が一部抜け落ちているため、記入するように教員が指摘すると、めんどくさがって大きな声で「はあ??」と威嚇する学生がおり、その学生の態度を見てケラケラとずっと笑い、反抗的態度を助長させ手をたたいて喜ぶ学生がいるなど、クラスの士気を下げ、学習意欲をそぐ行動をとる。</p> <p>授業は、主体的に参加することが重要であり、また、教員やゼミ長などが1人で作り上げる物ではなく、参加者全員が協力しながらみんなで作り上げるものである。</p> <p>授業について「過酷」という表現をつかい記述した意見があったが、コミュニケーションを取ろうとしたのにゼミの仲間全員が無反応のまま、透明人間のような扱いをされて悲しい思いをした人、やりたくないグループワークの司会をしなければならぬことに不満を感じた人、授業を邪魔したわけではないのに教員に注意をされ授業中に自分の好きな音楽を聞かせてもらえないことに不満を持った人、PCゲームを中断して授業に参加するように教員に注意され不満に思った人、授業に出席した方がよいと教員に言われ不満に思った人、グループワークのディスカッションでは、LINEで個別入力するのではなく、口頭で相互にいろいろな意見を出し合うようにした方がよいと教員にアドバイスされ納得がいかなかった人などにとっては、「過酷」な授業だと感じたのかもかもしれない。</p> <p>教員としては、ゼミ学生と一緒にいる授業内だけではなくそれ以外でも、極力フォローをしてきたつもりであったが、フォローしきれなかったようで、大変残念に思っている。</p> <p>また、人に対する思いやりやコミュニケーションの重要性、グループワークでの協調性、意欲的に取り組むことの大切さ、興味関心を持つことや、それらの発展的な広がりによる効用などを授業を通して理解してもらいたかったが、教員の意図がうまく伝わらなかったようで、まったく改善は見られず、大変悲しく感じている。</p>